

浜松版MaaS構想（案）

背景

- 国は、骨太の方針で、東京一極集中型から「多核連携型」への移行を掲げ、**地方都市の活性化に向けた環境整備の推進**を位置づけています。**移動環境の整備は重要施策の一つ**であり「**日本版MaaSの推進**」等の取組が成長戦略に位置づけられています。また国際社会における環境負荷低減の要請への対応も求められています。
- 本市は、人口減少・少子高齢化を背景に、公共交通の維持をはじめとした交通課題に直面しています。生活サービス（買物や医療等）の維持も大きな課題であり、**各種サービスとモビリティの連携による持続可能なまちづくり**が求められています。
- 本市は「**デジタルファースト宣言**」のもと**デジタル・スマートシティの取組**を開始。データ利活用等で**MaaSの取組との連携**が求められています。
- Withコロナ/ポストコロナ時代の「**ニューノーマル**」に対応した新たな環境整備の一つである「**デュアルモード社会**」の構築も求められています。

活かすべき本市の強み

- **多様な暮らし方や楽しみ方を可能にする環境**（国土縮図型都市／交通至便）
- **市民・企業のやまゝいか精神や共助の心**
- **ものづくり力**（世界的な輸送用機器メーカーや楽器メーカー等の集積／スタートアップ・エコシステムグローバル拠点都市）

目指す方向性（基本理念）

ヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”と、浜松の暮らしはもっとかがやく

人口減少・少子高齢化で限られた資源（ヒト・モノ・コト）をモビリティで繋ぎ、持続可能な都市を目指します。さらに、ヒトの移動に留まらない価値を創出し、浜松での暮らしをより豊かにし、来訪者にとっての魅力も高めていきます。

必要な視点1：地域ごとの魅力の最大化

都市部から中山間地まで多様な暮らし方・楽しみ方ができる本市の魅力を最大化します。

必要な視点2：ともに支え、ともに創造

人々の移動や地域を“ともに支え”、様々なモビリティサービスを創出することでより豊かな暮らしを“ともに創造”します。

必要な視点3：しなやかに繋がる

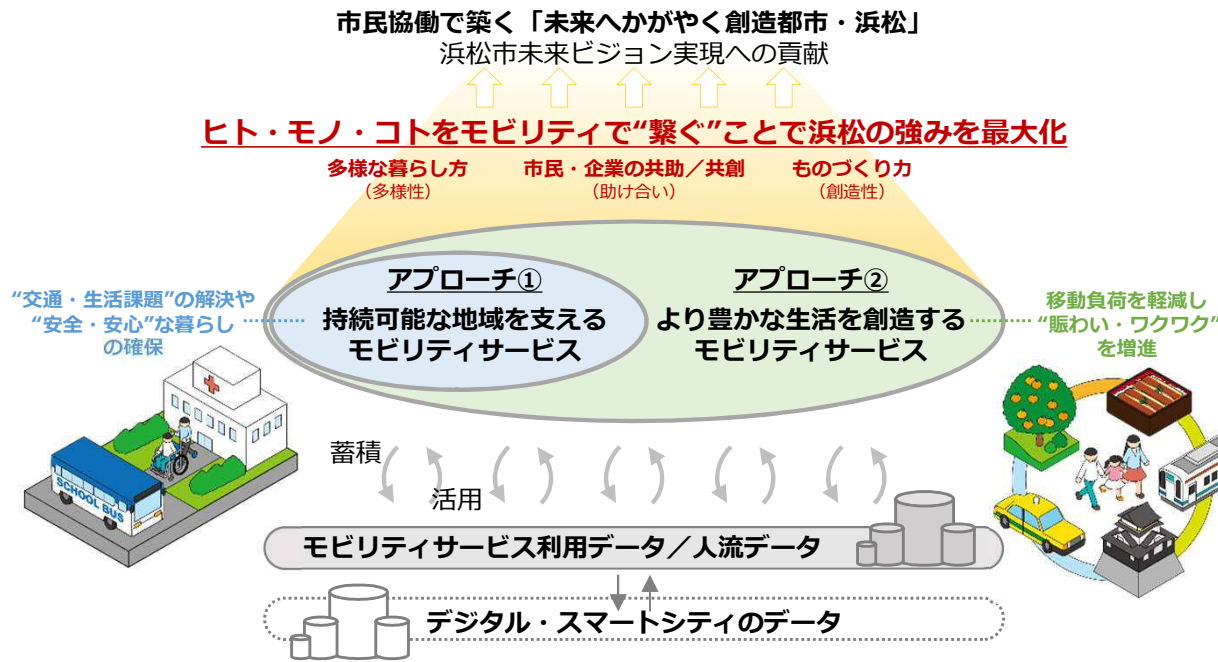
利用者目線のシームレスなサービスや自然災害・パンデミックへの備えなど、しなやかに繋がる地域を構築します

必要な視点4：市民起点でのまちづくり

コンパクトでメリハリのあるまちづくりとともに、デジタルテクノロジーは手段として捉え、高齢者や子育て世代をはじめ多様な市民の生活ニーズからサービスを発想します。

MaaS推進の考え方

喫緊の課題への対応（アプローチ①）と、未来へのチャレンジ（アプローチ②）を組合せて取り組みながら多様性・創造性といった浜松市の強みを最大化していきます。



推進体制：

市民・企業の主体的参加で創造性の高いエコシステムを形成していきます。



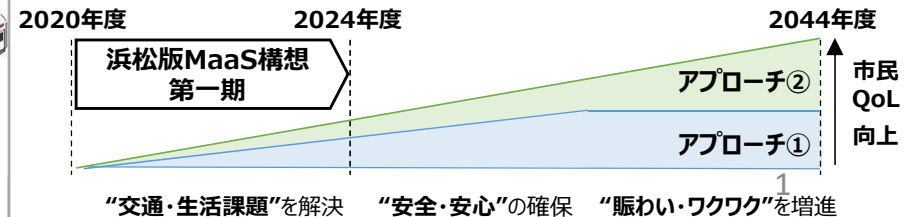
中核となる「浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム」

官民が連携し、モビリティサービスを生み出すプロジェクト創出を支援しています。「浜松市デリバリープラットフォーム」や「浜松テレワークパーク構想」など、様々なプロジェクトが立ち上がり、創造性の高いエコシステムを形成しています。



ロードマップ：

2020年度から2024年度の5年間で第一期と位置づけ、交通・生活課題解決から着手し、モビリティとサービスの連携や官民共創の取組を推進し、浜松版MaaSの基礎固めを行います。



浜松版MaaS構想（案）

考えられるサービスのイメージ

“国土縮図型都市”と呼ばれる本市の多様なフィールドを活用し、市の全域でイノベーションを起こしていきます。

“交通・生活課題”の解決や
“安全・安心”な暮らし
の確保

アプローチ①
持続可能な地域を支える
モビリティサービス

アプローチ②
より豊かな生活を創造する
モビリティサービス

移動負荷を軽減し
“賑わい・ワクワク”
を増進



買物難民や
宅配業の人手不足
等への対応として、支えあい
による小売や物流の促進。

移動販売や 配送の地域内連携



中山間地域をはじめ、
公共交通の
維持が難しい地域
での活用を検討。

自動運転車の活用

移動診療の推進

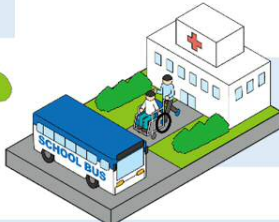
(医療MaaS)

車を活用した遠隔診療や
遠隔服薬指導、薬剤
配送の推進。



遊休モビリティ資産の活用

介護や福祉施設の送迎車両やスクールバスなど、
昼間の遊休車両等の活用の促進。



自家用車を使った乗り合いの促進

(自家用有償旅客運送等)

公共交通の維持が困難な地域を
中心に、住民が自家用車を用いて、
住民を有償運送する共助型のサービスの
導入を促進。



移動や人流データの 活用・見える化

(公共交通の効率化、アプリ活用など)

MaaSサービスの利用データや、ビーコン
等で収集された人流データ等を
活用し、運行の最適化や
新たなサービス創出を促進



異なる交通手段の連携や 一体的運用・運営

異なる交通手段の連携や
デマンド型の運行等を活用し、
移動の効率化を促進。



デュアルモード社会づくりへの貢献

自然災害やパンデミック発生など、移動が
制限される際のドローン等の活用の検討。

浜松市
MAP

多拠点居住用サブスクMaaS

(関係人口向けの移動環境)

「多拠点生活者」向けにサブスクで利用できる
移動手段の提供など、多拠点居住者
誘致に向けた環境整備。



浜松テレワークパーク構想

クルマをオフィス空間として活用し、
駐車場等の空きスペースを利用
することで、景観や環境を
自由に選べるサービスを
官民共創で構築。



観光資源との連携

モビリティで観光資源を
繋いだり、観光施設や
アクティビティとセットにしたチケット
の販売等で浜松の魅力を最大化。



フードデリバリー プラットフォーム構築

浜松発の地方版フードデリバリー
プラットフォームを官民連携で構築。



商業施設等 との連携

クーポンの配信やサインページへのリコメンド情報の表示
など、商業施設等との連携により、まちを活性化。



イベント等との連携

食、音楽、演劇等、場所を問わず
車で提供可能な様々なエンターテインメントを組み合わせ、
浜松の豊かな自然を活用した
イベントを提供。



第一期（2020年度～2024年度）の取組

重点分野の取組と基盤づくりを推進し、本市が日本版MaaSを先導するエリアとなることを目指します。

重点分野

健康・医療・福祉

中山間地域の医師不足や
高齢化への対応など

生活インフラ

高い自動車車分担率・
高齢者の免許返納への対応など

With/ポストコロナ

デュアルモードへの対応など

防災・安全

インフラメンテナンスや
災害時の対応など

移動診療
(医療MaaS)

自家用車乗り合い
(自家用有償旅客運送)

フードデリバリー
(浜松版プラットフォーム)

浜松テレパーク構想
(クルマをオフィス空間に)

ドローン活用
(平時・有事)

基盤づくり

エコシステム構築

市民、企業・大学等、行政が連携し、
創発性の高いエコシステム

データ活用

地域課題の解決や地域の活性化
に向けた、データの利活用の促進

浜松市モビリティサービス推進
コンソーシアムでのアイデアソン等

モビリティ分野のデータ利活用に
関する勉強会開催等